

各作業部会などの議論状況

部会名称		主要議題	議論状況
組織委員会			
1	アジア地域作業部会 (ASRWG)	ICID Vision 2030 へのロードマップ	議長は作業部会のワークショップ内容や 2022 年のマイルストーンと連携させロードマップ更新案を作成する。
		地域内・複数国組織との協力連携	日本国内委員会による台湾訪問が延期された。
		PAWEES・INWEPF との協力展開	日本は INWEPF の活動情報を提供することを表明した。
		作業部会ワークショップの運営計画	次回会議以降に、ICID Vision 2030 へのロードマップと連携させたワークショップを開催する。
		その他の議題	作業部会のウェブサイト充実させる。また、議長から 2〜3 月に 1 回ウェブ会議を開催するとの意向が示された。
2	若手かんがい排水技術者フォーラム部会 (IYPeF)	IYPeF スキームの改定	若手かんがい排水技術者が積極的に参加できるよう、e-ディスカッションと Webinars の開催時期を調整した。また、メンバーシップと参加費補助対象者の選定方法に関する IYPeF スキームを改定した。
		e-ディスカッションに関する合意事項	e-ディスカッションのトピックは作業部会が決める。各回をコーディネーター1 人が担当し、2-3 人の若手かんがい排水技術者とチームを組み、コンセプトノートを作成する。15 日前までにコンセプトノートに関連作業部会と共有する。関連作業部会からメンターをつける。担当コーディネーターは 2 週間以内に 2 ページのレポートを作成する。
		e-ディスカッションと Webinars に関する報告	LinkedIn には多数登録されているが e-ディスカッションに参加するメンバーは少ない。2020 年には「Irrigation and Drainage Journal」にレビュー論文を投稿できるようにガイドラインを作成する。また、2 ページの要旨集を出版できるように「ICID Journal Editorial Board」と相談する。
		その他の議題	コーディネーターが LinkedIn を用いた e-ディスカッションへの参加方法を説明した。また、投稿内容に関して剽窃への注意を喚起した。若手かんがい排水技術者の活動への参加を促すために e メールでの周知が提案されたが、ソーシャルメディアでの情報共有を進める。また、さらなる参加を促すために会議期間前・中・後のイベントを検討する。
技術活動委員会			
<Knowledge>			
1	ICID ジャーナル編集委員会 (EB-JOUR)	査読者の認知	ゲスト編集者と査読者は、2020 年第 1 号に記名して認知した。2018 年末より出版論文に、論文担当のジョイントエディターとアソシエイトエディターが記名されることになった。また、査読者についても本人が希望すれば Publons に収録されることになった。
		査読プロセス	いくつかの論文で査読プロセスに遅れがある。このような事態を防ぐため議長とジョイントエディターの頻繁なチェックが必要である。

部会名称		主要議題	議論状況
		最優秀論文	2019 年には 98 編の論文が普通第 5 号と特別号で発表された。また、2020 年の最優秀論文は 12 月の IEC において発表される予定である。
		作業部会メンバー	増加する論文に対応するため若い作業部会メンバーの増加が必要である。
		ICID Vision 2030	バリ会議（前回第 70 回 IEC 会議、2019 年 9 月）において 2018-2022 の行動計画が承認され、2020 年に達成すべきマイルストーンが追加された。また、行動計画については作業部会でも適宜見直しを行う。
		「Irrigation and Drainage 誌」の配布	各国の個人会員がオンライン誌へのアクセス権を得られることになったが、登録数は少ない。各国委員会は、更新会員名簿を提出することが望まれる。
2	歴史部会 (WG-HIST)	ウェブ会議の活用	ICID 本部より、COVID-19 の流行により多くの会合が延期を余儀なくされているので、ウェブ会議の積極的な活用を求める要望が議長に寄せられている。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議において行動計画 2018-2022 が承認された。この行動計画を参考にしてロードマップを更新していく。
		「Historical Water Sustainability」の出版	2020 年 2 月 ICID 本部より、最終章の完成と各メンバーによるレビュー完了を求める要請が議長にあったが、返答は保留中である。なお、4 ヶ月以内に編集を終える計画である。
		WG-HIST のウェブサイト	2020 年 2 月 ICID 本部は、歴史に関する論文・プレゼンテーション・記事・レポートなどを作業部会のウェブサイトを提供するようメンバーに要請した。
		「Historical Water Sustainability」の出版等に関するオンラインでのセミナー	2020 年 2 月 19 日に Webinars が開催され、議長は「Historical Water Sustainability」の出版について情報を共有した。
		世界かんがい施設遺産のレビュー	中国から 4、インドから 4、イランから 2、日本から 3、韓国から 1 の合計 14 施設が、今年ノミネートされた。各メンバーの主導によるノミネートの推進が期待される。
3	能力開発・研修・教育作業学部 (WG-CDTE)	ウェブ会議の活用	COVID-19 の影響を考慮しオンライン会議を推奨する。
		ICID Vision 2030 に向けた活動	バリ会議で採択された 2018-2022 年の行動計画をレビューし、2030 年に向けて行動計画を検討している。
		若手かんがい排水技術者対象のトレーニングプログラム	第 5 回アフリカ地域会議における企画は、COVID-19 の影響により延期された。
		第 2 回アフリカ若手水専門家フォーラム (Af-YWPF) の報告	アフリカ地域における若手専門家への啓蒙が目的で、2019 年 10 月 23 日にエジプトで、第 2 回アフリカ若手水専門家フォーラムが開催された。

部会名称		主要議題	議論状況
		人材育成ツールとしての e ラーニングプログラム	ICID e ラーニングプラットフォームが構築された。既存の e ラーニングプログラムや農業水利に関する情報収集とともに、知識と実践のギャップを特定し、教育・訓練センター等の情報を集約する。また、e ラーニングのトピック案について次の会議において議論する。
		その他の議題	作業部会の活動を 2027 年まで延長するように働きかける旨の報告があった。
4	第 9 回世界水フォーラムタスクフォース (TF-WWF9)	WWF9 トピックの選定	2020 年 2 月 ICID 本部は、適切なトピックを選び WWF9 に貢献するよう各国国内委員会に連絡した。
		WWF9 準備作業のための各国国内委員会との連絡	ICID 本部は、タスクフォース議長と各国国内委員会との会議を開催し、WWF9 においてタスクフォース主催のセッションに貢献するよう各国国内委員会に促した。また、議長は各国国内委員会の代表に、タスクフォースの枠組み・構造・WWF9 の優先事項を説明し、セッションへの各国国内委員会の貢献を促した。
		WWF9 準備作業のための各 WG との連絡	議長は、WWF9 セッションへの貢献に関する各部会との協議結果を、タスクフォースメンバーに報告した。
		ICID が WWF9 に貢献する分野の特定	バリ会議の結果 7 個のトピックが特定され、議長は関連するメンバーに貢献を要請した。なお、ICID は、WWF9 のアクショングループ 2.D の下で 3 個のセッショングループを運営する責任がある。2020 年 9 月 2 日、議長は、これらの 3 セッショングループに、WWF9 における ICID の約割に関する行動計画書を送付した。
		その他の議題	WWF9 への ICID の貢献と、FAO・IWMI・GWP・IFAD のセッショングループコーディネーターとしての参加について議論するために、2020 年 8 月 28 日にスカイプ会議が開催された。また、若手かんがい排水技術者を WWF9 に参加させることが提案された。
5	バリューエンジニアリング部会 (WG-VE)	ウェブ会議の活用	各部会は、Webex プラットフォームを活用して、議事録に示された事項を検討するよう求められている。ICID 本部は、部会が活動の進捗状況を確認するために、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを活用するよう議長に要請した。
		WG-VE スコープ案の更新	TF-VE は 2017 年に任期を終了した。新 WG-VE のスコープ案は、カナダのサスカトゥーン会議 (2018) で更新された。また、バリ会議で、理事会は WG-VE の設立を承認した。
		作業部会成果の出版物	作業部会議長は、出版物のドラフト版を ICID 本部に提出し各委員に回覧して意見を求めた。2019 年 12 月、ICID 本部は、ドラフト原稿を校正し、承認を得るため校正版を作業部会議長と共有した。
6	多言語技術辞書タスクフォース (TF-MTD)	多言語技術辞書の更新状況	修正が望ましい用語はその後追加され、合計 855 用語の修正が必要なものとして報告された。ICID 本部は、各メンバーが確認を行い、TF-MTD ヘフィードバックするよう依頼した。各章の用語更新確認は、関連する各作業部会に依頼する。
		多言語技術辞書の多様な言語への翻訳	英語版の更新が完了後、ICID 本部の主導の下、各国の国内委員会により各言語へ翻訳される。
		多言語技術辞書の普及とメンテナンス	多言語バージョンの電子版が ICID ウェブサイトに掲載されている。なお、TF-MTD ウェブサイトのユーザーインターフェースの改善について要望意見があった。

部会名称		主要議題	議論状況
		ウェブ会議の開催	カナダのサスカトゥーン会議（2018）で、議長より、TF-MTD ウェブ会議の開催提案があった。必要に応じ、次回の IEC より前にウェブ会議を開催する。
<Basin>			
1	環境影響部会 (WG-ENV)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを開催するよう各作業部会議長に要求した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議で WG-ENV の行動計画を検討した。また、かんがいシステムの生態系に関するレビューペーパーのために、ブレインストーミングセッションが開催された。
		作業部会成果の出版物	かんがい農業生態系に関するケーススタディの収集を決定し、論文のサブテーマリストが作成された。また、副議長は原稿草案を配布し、個々のケーススタディを収集するために担当を割り当てた。ICID 本部は、作業部会メンバーに自国の事例研究を提出するよう呼びかけた。松野委員は、田んぼダム・エコツーリズム・気候緩和効果に係る日本のケースを担当する。
		多言語技術辞書の更新	八丁委員は、多言語技術辞書の更新を志願した。ICID 本部は、多言語技術辞書の最新リストを TF-MTD に提出するよう八丁委員に依頼した。
		作業部会ワークショップ	バリ会議で作業部会は、「Ecosystem services of irrigation and drainage systems」に関するワークショップの開催を検討したが、COVID-19 のために開催されなかった。
2	干潮地域の持続的開発部会 (WG-SDTA)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、COVID-19 の影響に対処するため、ウェブ会議を活用して作業部会の活動を継続するよう議長に要求した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	作業部会議長は、新たなマイルストーンを提案した。ウェブ会議で新マイルストーンを完成の後、これを PCTA に提供する予定である。
		2022 年シドニー会議での国際ワークショップ	第 24 回シドニー会議（2022 年 7 月）での国際ワークショップの開催が提案された。論文募集のため、1 ページの概要が必要である。
		短期コース「潮汐予測と地盤沈下抑制と干拓」	バリ会議で、2019 年 12 月に、台湾で左記短期コースの開催を決定した。ICID 本部は、作業部会で議論を行い、バックグラウンドノートに PCTA へ提出するよう議長に要請した。マレーシアが中心となり、ウェブ上で検討継続の予定である。
		2021 年のサイドイベント「潮汐地域における地盤沈下の世界的な課題と統合ソリューション」	2020 年 3 月、ICID 本部は、左記サイドイベントに関する情報の更新を要請した。なお、ウェブ会議を通じて議論を継続する予定である。
		ウェブセミナーと e-Discussions	バリ会議で、作業部会は、ウェブセミナー「気候変動による感潮域の排水能力と洪水災害」と e-ディスカッション「感潮域における排水、地盤沈下、地下水」の開催を決定した。また、ICID 本部は、プログラムとコンセプトノートの作成を議長に要請した。議長は情報を更新する。

部会名称		主要議題	議論状況
		沿岸域における地下水と地盤沈下	バリ会議で、「沿岸地域の地下水と地盤沈下」について議論した。ICID 本部は、この項目のリーダーを指名するよう議長に要請した。
		多言語技術辞書の更新	多言語技術辞書の更新は、吉永委員が担当する。なお、多言語技術辞書の更新に関する対応方針は、議長と相談の予定である。
		カントリーノートの作成	議長は、各メンバーに、カントリーノート 2 ページを作成するよう要請した。記入が困難な項目があるとの意見があり、フォーマットを変更する予定である。
3	水需要紛争地域における水不足対応作業部会 (WG-MWSCD)	ウェブ会議の活用	ICID 本部より、COVID-19 による影響を最小限に抑えるため、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを行うよう各議長へ要請があった。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議で確認したロードマップを再確認した。これにより、2021 年にケーススタディに基づいたガイドラインを検討し、2022 年にファイナルレポートと共に仕上げることになった。
		多言語専門用語辞典	サスカトゥーン会議 (2018) において、長野委員から状況報告があった。これを踏まえ、各メンバーは作業部会に関係ある用語の見直しを行う。用語の更新は、ファイナルレポートやガイドライン作成と同時に進行。
		WG-MWSCD 内部ワークショップ (2021 年 9 月モロッコ開催)	結果的に、2021 年 9 月モロッコ開催案が提案された。本案の場合、ロードマップに 1 年の遅延が生じる恐れがあるが、仕方ないという意見になった。
		作業部会のウェブサイト	作業部会のウェブサイトは更新が行われ、最新の情報となっている。また、2020 年 2 月、メンバーは関連論文・記事の提供を要請された。2020 年 3 月には Zotero サービスを利用したグループライブラリーが作成され、ウェブサイトをメンバー間で共有した。
		ウェブ会議	前回の会議では、人数が揃わず十分に議論ができなかった。議長から、リモート会議を適宜持つことが提案された。なお、議長からメンバーに、個別にウェブ会議をする案が提示されたが検討は次回へ持ち越された。
4	気候変動と農業用水水管理作業部会 (WG-CLIMATE)	ウェブ会議の活用	COVID-19 による会議延期への対応として、各作業部会でウェブ会議による討議が推奨された。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議において、作業部会はロードマップを討議・確認し、ゴール B、D のために、「Guide to Innovated Irrigation and Drainage Management under the Changing Climate」を出版することで合意した。
		作業部会成果の出版物	2020 年 3 月 11 日のウェブ会議において、議長より、上記出版物の目次・各章草案を 2020 年の会合までに準備することが提案された。また、2020 年 9 月 10 日のウェブ会議において、同書の編集委員を決定した。
		作業部会のウェブサイト	バリ会議において、作業部会 ウェブの内容や更新頻度について議論され、ウェブ担当者が決められた。
		多言語技術辞書の更新	多言語技術辞書更新の担当者が決められ、多言語技術辞書の更新が行われた。更新版はメンバーへの回覧後、TF-MTD に提出される。
		活動計画	2015 年に活動開始した WG-CLIMATE は、来年で活動を終える。活動の延長に関しては、本部に適切な対応をとる。

部会名称		主要議題	議論状況
5	社会・経済変革期にある国家におけるかんがい排水部会 (WG-IDSST)	ウェブ会議の活用	バリ会議では、ネット会議のために、Webex プラットフォームの利用について議論した。また、ICID 本部は、各作業部会議長に、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを行うことを要請した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	ロードマップの最終版は、会議終了後 2〜3 週間以内に、ICID 本部に提出することが提案された。
		新しい任務に基づく作業計画の検討と作成	バリ会議では、新たな任務を考慮した作業部会の作業計画が議論された。議長は、作業部会メンバーに対し、自国の国内委員会を代表して情報提供することを要請した。
		ネットワークの整備・強化	バリ会議後に作業部会メンバーが議論できるように、CAWATER ウェブサイトの ICID ウィンドウを使用することが提案された。中央アジア国間調整水委員会（SIC-ICWC）の科学情報センターには、CAWater が掲載されている。
		かんがい排水に関するデータベース	作業部会は、経験・技術・現状評価などを用意する。また、受け取った情報はすべての国に提供される。作業部会メンバーには、データベースへの積極的な情報提供が呼びかけられた。
		IWRM に関する事例とベストプラクティス	バリ会議では、SIC-ICWC の活動についての発表があった。中央アジアの専門家は水供給・かんがいの導入を積極的に推進してきており、中央アジア全域の土地利用・生産性・水利用効率とそれらの分布に関するデータをまとめた WUEMOCA（水利用効率のモニタリング）が作成されている。
		エコロジカルパラメーターのモニタリングと評価	バリ会議では、2020 年の ICID 会議中に各国が情報を提供することが提案され、各国の河川デルタの環境・塩害・土地の伐採などについての報告が行われた。ICID 本部は、全加盟国に対し、WG-IDSST への積極的な貢献を要請した。また、ウズベキスタンは最新情報を提供する。
		キャパシティービルディング	清水委員は、「乾燥・半乾燥地域における持続可能な農業のための土地・水資源の適切な管理」と題した、JICA 集団研修を紹介した。
6	統合的洪水管理部会 (WG-AFM)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、COVID-19 の状況に対し、ウェブ会議の活用により作業部会の活動を継続するよう議長に要求した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議では、行動計画 2018-2022 が承認された。作業部会は、ロードマップの行動計画を再検討し、2022 年までの更新が必要とし、2022 年のマイルストーンを作成した。
		WG-CAFM の閉鎖報告	バリ会議で、議長は、WG-CAFM の完了報告書は作成済みであり、メンバー間で回覧するために ICID 本部に提出予定であると通知した。これに関し、状況認識が、議長と事務局で異なる部分があり、両方で調整を行う予定である。
		作業部会成果の出版物	メキシコ会議（2017）で作業部会は、ICID Vision 2030 へのロードマップの一部として、洪水に関するワークショップ論文およびプレゼンテーションに基づいた「統合的洪水管理」という出版物を公開することを決定した。また、バリ会議で、ケーススタディとしてのプレゼンテーションを実施した。作業部会議長は、最終版を回覧してコメントを依頼し、出版のスケジュールを決定する予定である。

部会名称		主要議題	議論状況
		多言語技術辞書	2020 年 10 月のウェブ会議で議論を予定したが、議論は行われなかった。また、ICID 本部は、作業部会メンバーに前もって多言語技術辞書を確認し、議論するよう要求している。
<Schemes>			
1	かんがい排水施設 管理の制度と組織 作業部会 (WG- IOA)	ICID Vision 2030 にむけた進捗	バリ会議では、ICID Vision 2030 に向け、制度と組織の重要性が確認された。
		作業部会成果の出版物	ICID-Wiley Publication から、2 報のシンポジウム論文が出版された。また、ネパール・カトマンズ市での第 8 回 ARC ミーティングに合わせ出版・発表する予定の、2 報が紹介された。
		ICID 本部からの作業部会メンバー発表の要請	作業部会会合で、メンバーの発表は無く、次回に先送りとなった。また、第 5 回アフリカ地域会議で発表予定だった論文は、Webinars あるいはオンライン会合にて発表する形とすることが、議長から提案された。
		多言語技術辞書の進捗	これまで、148 語を記載済みである。
		WG-IOA の存続期間の延長	今回のワークショップで、2021 年 9 月に任務が完了となる WG-IOA の情報収集を終える。WG-IOA の存続期間は 2021 年末までとなっている。なお、IEC で、2022 年末又は 2023 年末まで延長する案が議論された結果、2023 年末まで延長されることになった。
		WG-IOA の最終報告	WG-IOA の最終報告を、第 72 回 IEC シドニー会議で行う予定をしていたが、COVID-19 の影響で作業が遅れており、第 73 回 IEC・WIF4 会議に延期される見込みである。目次構成が合意された後、執筆や編集の分担を議論する。
2	持続可能な排水部 会 (WG-SDRG)	バーチャル会議	2020 年 11 月 2 日、バーチャル会議が開催され 13 名が出席した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議でロードマップの更新を行い、今回、更新結果が確認された。
		作業部会の発表	越山委員が、「開水路形式の水田農区からの流出水による希釈効果の事例」について発表を行った。
		「世界の排水面積」のデータベース更新	2020 年 2 月、ICID 本部からメンバーに、各国データの更新要請があった。2020 年 5 月に、日本の最新データを ICID 本部へ報告した。
		多言語技術辞書の更新	多言語技術辞書に関する、更新作業の担当者は決まらなかった。
		第 14 回国際排水ワークショップの開催	ジョージア、カナダ・アメリカ合同、中国での開催について提案があったが、今回の会合で情報提案はなく、保留となった。
		新作業部会のスコーピングドキュメント	バリ会議では、排水システムは、かんがい地域だけでなく、多湿な国の天水地域でも必要とされていることが議論された。なお、排水の重要性に鑑み、本作業部会は、1 年延長されることになった。また、新スコーピングドキュメントの草案が作成された。

部会名称		主要議題	議論状況
3	かんがい施設計画の近代化と再活性化部会 (WG-M&R)	ウェブ会議の活用	COVID-19 による困難な状況に対し、部会は、Webex プラットフォームを最大限に活用して活動を維持するように求められている。ICID 本部は、進捗確認のため、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを開催するよう議長に要求している。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議で、作業部会はロードマップを踏まえて以下の議論を行った。 <u>A1 戦略：かんがいシステムの近代化</u> 20 を超える事例が利用可能になった。これらは、近代化に関するガイドラインを作成するための最新の論文として照合される。 <u>A2 戦略：かんがいシステムの O&M の改善</u> アドボカシー論文は、O&M 基準に関して提案された調査とその後の論文で扱われる。また、現在の出版物が完成するまで、かんがいシステム O&M の規範の開発を延期することを提案した。 <u>B1 戦略：適切な方針の開発を支援</u> 部会は、WWF8 のために、ポジションペーパーの作成を提案したが実行されなかった。現在実施中の作業が完了するまで、延期することが提案された。 <u>C1 戦略：農業用水管理専門家への知識共有プラットフォームの提供</u> バリ会議 WIF3 で国際ワークショップを開催し、9 つの事例を発表し議論した。2021 年に、Webinars・対面会議を実施する。 <u>F1 戦略：農業用水管理の知識の開発と共有</u> 部会は、シドニー会議後に、水資源管理に関する知見を共有する。
		作業部会の公開	バリ会議で、2019/20 年の作業に、加盟国から O&M 基準に関する最新情報を入手するための、質問票の作成を含めることが提案された。議長は、要約を作成し、メンバーから意見を収集し、議論の土台にすることとした。
		かんがいサービスの近代化に関する国際ワークショップ	部会は、かんがいサービスの近代化に関する国際ワークショップを計画している。現在、合計 18 編の要旨が受領され、レビュー委員会によって査読されている。
4	かんがいの発展および管理部会 (WG-IDM)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、COVID-19 状況下において、作業部会会議の議事録によるフォローアップアクションを議論し、アクションポイントの進捗状況を確認するために、議長に、Webex Meetings、Webinars、e-ディスカッションを開催するよう要請した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議でロードマップの一部を更新した。今後、グループは議論を行い、進捗状況を PCTA に報告する。また、今回、役割分担が決まった。

部会名称		主要議題	議論状況
		作業部会成果の出版物	2020 年 10 月、清水委員は、「かんがいシステムによって提供されるアメニティ、サービス、グッズに関する調査」と題する第 1 次報告書草案を全会員と共有した。今後、フィードバックを得る予定である。
		メンバーによるプレゼンテーション	2020 年 2 月、ICID 本部は、議長と協議の上、グループの任務に関連したプレゼンテーションを行うようメンバーに要請した。バリ会議では、清水委員によるプレゼンテーションが行われた。
		多言語技術辞書の更新	2020 年 4 月、清水委員は、改訂版多言語技術辞書で検討すべき技術用語候補が記載されているエクセルファイルを共有した。これを踏まえ、ICID 本部は、最終的に取りまとめたものをウェブ会議で議論する。
		その他の議題	メンバーは、進捗状況とコロナ禍の影響で多くのイベントが延期されていることを考慮し、本作業部会の期間を 2023 年まで 2 年延長することを、ICID 本部に申請することで合意した。
5	かんがい地域の節水作業部会 (WG-WATS)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、Webex のオンライン会議ツールが導入されているので、オンライン会議や Webinars の活用を議長に依頼した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	作業部会の作業について議論が行われた。
		アンケート	「節水農業に関する政策や法律について」に関するアンケートを作成し、各国の国内委員に送付し返信を待っている。現時点で、日本を含む 3 か国から返信があった。
		水価政策	バリ会議において、水価政策に関する書籍をまとめる合意がなされた。2020 年 4 月 ICID 本部は、各国の国内委員会に通知を出している段階で、返事がまたれている。なお、加藤委員は、日本における節水技術は、循環かんがいのような、比較的大きなかんがいシステム（琵琶湖、印旛沼）を整えたところで、環境保全とセットで実施されていることを伝えた。
		これまで出版された本・マニュアル・指針の収集	2020 年 2 月、ICID 本部は、作業部会の書記長に、近年の出版物等の情報をアップデートするよう依頼した。現在、返事待ちである。
		専門用語の多言語化	バリ会議で、専門用語の多言語化が議論され、担当者も決められた。2020 年 2 月、ICID 本部は、担当者と協力して進めるように指示し、エジプト・イラクの委員が協力することを表明した。
<On-Farm>			
1	低水質のかんがい水利用作業部会 (WG-NCWRI)	ウェブ会議の活用	ICID 本部は、COVID-19 の影響下で、作業部会が活発な議論を行うため、Webex によるオンライン会議や Webinars を推奨している。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	低品質な水の利用に関する各国のケーススタディの収集、新活動計画の 2019 年 12 月までの決定、2020 年 6 月までのかんがい水質基準の作成に遅れがみられ、これら作業の遅れについて説明があった。
		マニュアルと基準作り	副議長から、ICID が提案する再生水のかんがい利用の指針に、モニタリング・評価・かんがい技術・農産物品種・水配分等の項目を入れる提案があった。また、これに係る担当者は副議長になった。副議長は、利用指針のドラフトを 10 月にメンバーに公開し、12 月に議論したいとした。

部会名称		主要議題	議論状況
2	ほ場かんがいシステム部会 (WG-SON FARM)	国際ワークショップの開催	2020 年 12 月の第 71 回 IEC にて、国際ワークショップ開催の要望があり、作業部会メンバーは参加を要請されたが、オンライン開催の可能性があるということで了承した。
		作業部会成果の出版物	加藤委員と副議長で、WG-PQW のテクニカルペーパーの作成を検討する。
		資料のアップデート	ICID 本部から、ウェブサイトを立て上げたので、定期的に資料をアップデートするように依頼された。
		議長の交代	議長は、後日メールにて候補者を募集し、作業部会内で選挙することになった。
		ウェブ会議の活用	ICID 本部は、COVID-19 の影響に対処するため、オンラインシステムを最大限活用するよう各議長に要請した。
		ICID Vision 2030 へのロードマップ	バリ会議で作業部会は、ロードマップに則り活動をレビューし、進捗を更新した。また、各部会においては、アクションプラン 2018-2022 を踏まえて、2022 年マイルストーンを含む改訂アクションプランを、ロードマップに落とし込むことが求められている。WG-SON FARM の 2022 年マイルストーンは以下のように設定された。 「Overview Paper1 編の作成；第 2、3 回ワークショップの開催；データベースの更新；研究論文 1 編の作成；ペーパー類作成の手引きの準備」
		作業部会成果の出版物	議長は、2020 年 7 月に前議長に連絡し、長期にわたり最終化未了となっている 2 論文の扱いについて相談した。議長は、次回会合で進捗を共有する。
		農業成長と農家収入に資するマイクロかんがいシステムに関する内部ワークショップ	左記ワークショップの開催が順延になっている。同じ内容で、国際ワークショップとして、2023 年に開催することとなった。
		第 10 回 International Micro Irrigation Conference (2021 年、モロッコ)	左記会議は、2021 年に、モロッコにて、「技術革新とデジタルトランスフォーメーションの時代におけるマイクロかんがい」をテーマに開催される計画である。ただし、モロッコ国内委員会によれば、2022 年に順延せざるを得ない見込みである。
		存続期間延長とスコーピングドキュメントの作成	バリ会議で、当部会の存続期間を 2025 年まで延長することが提言され、IEC 決議書で承認された。議長は、当部会の既存スコーピングドキュメントは現在も通用するため、期間のみ 3 年延長して PCTA に提出するという提案をした。これは、次回会合で議論される。

備考) IYPEF の議論状況は第 70 回国際執行理事会時の議論、他作業部会の議論状況は第 71 回国際執行理事会時の議論を整理したものである。